委員会報告

Committee Report

国際会議報告

International Meetings

【土木学会論文集　第413号／Ⅳ-12　1990年1月】

委員会報告

土木計画学研究委員会の活動状況

ACTIVITIES OF THE STUDY GROUP ON INFRASTRUCTURE PLANNING AND MANAGEMENT

土木計画学研究委員会

By the Steering Committee of the Study Group on Infrastructure Planning and Management

本報告では，昭和62，63年度の土木計画学研究委員会の活動状況を報告する．

1.　本委員会の活動分野と組織

本委員会の目的は土木計画学の研究，実務に携わる土木学会員の活動を組織だて，情報の交換，相互の研鑽の場を提供することにより，会員の研究および計画技術の確立の推進を図るための事業を行うことである．

具体的な活動としては，研究発表会の開催，論文集「土木計画学研究」の刊行，シンポジウムと講習会の開催，研究分科会の活動推進，国際交流等各種の事業を行うが，そのために，委員会の中に，幹事会，土木計画学研究編集小委員会，研究分科会，ワークショップが設けられている．もちろん，土木学会論文集編集委員会第Ⅳ部門（土木計画学）編集小委員会とも密接な関係がもたれている．土木計画学研究発表会とその論文集の刊行は編集小委員会が，シンポジウムと講習会は研究分科会が中心的役割をそれぞれ担当し，全体の企画，調整の作業は，委員長の委嘱に基づいて幹事会が行うこととしている．

2.　土木計画学研究発表会

昭和62年度の土木計画学研究発表会は，62年11月に習志野市の日本大学で開催され発表論文数104編，参加者数は400人で，発表会終了後千葉港，幕張地区，ディズニーランドなどの見学会が開催され，好評であった．この研究会で発表された審査付き論文は25編で，一般投稿論文は79編で，これらはそれぞれ論文集と講演集として出版されている．昭和63年度の研究発表会は，63年11月に沖縄の琉球大学で開催され，発表論文数129編，参加人数400人で，熱心な討論が行われた．なお，本研究発表会で発表された審査付き論文は34編で，一般投稿論文は95編で，これらも論文集，講演集として出版されている．

3.　論文集「土木計画学研究」

本委員会は毎年1回土木計画学研究発表会を開催しているが，発表される論文は審査付きと自由投稿の2種類に分けられている．研究発表会の企画および論文集，講演集の編集は，土木計画学編集小委員会が担当している．

土木計画学編集小委員会は，土木計画全般，地域都市計画，資源・環境景観，交通現象分析，交通基盤計画，交通運用管理の6つの分野に分けられ，各分野ごとに3名の委員が土木計画学研究委員長により任命，公表されている．現在の小委員長は吉川和広先生である．審査付き論文の審査は本小委員会委員と必要に応じて選定される外部査読委員によって行われている．

4.　分科会活動

研究活動の活性化を図るために，本委員会の中に，いくつかの研究課題に関する研究分科会が設けられている．土木計画学の研究に興味をもつ研究者または実務者により提案され，かつ委員会により望ましいと認められた課題に対して研究分科会の設置を認め，この分科会は定常的な活動を行うことになっている．

研究分科会には，分科会主査および幹事を置き，メンバーとしては参加希望者全員が参加し得ることになっている．分科会は，一応3年を目途に活動するものとし，その間の成果を本委員会のシンポジウムあるいは講習会の形で世に問うことができる．また，研究分科会のほかにも，会員が自由に組織して登録すれば活動できるワー

クショップ制度も設けられている．これは，研究分科会に移行するための準備的な研究活動グループである．

現在設置されている研究分科会には

① 高齢者・身障者のための都市・地域整備分科会
② 地区交通分科会
③ 港の景観設計分科会
④ 沿岸域研究分科会
⑤ SCA（Strategic Choice Approach）分科会

などがあり，ワークショップとして活動中のものには次のようなものがある．

① 社会・公共システムの信頼性・リスク評価ワークショップ
② 交通にかかわる事業化ワークショップ
③ 社会資本の整備水準ワークショップ
④ 交通計画作成支援システムワークショップ

これらに関心のある諸氏の積極的な参加が期待されている．

5. シンポジウムおよび講習会

本委員会の研究活動の成果を世に問うシンポジウムと講習会が原則として毎年1回それぞれ開催され，時宜を得た催しであるとの評価を得ている．これはひとえに，本委員会研究分科会諸氏の研究に対する熱意と努力の賜物である．

昭和62年度の講習会は「交通ネットワークの分析と計画：最新の理論と応用」と題して交通ネットワーク研究分科会の担当で東京で実施され，172名の参加者があった．

63年度には「水辺の景観設計」に関する講習会が同研究分科会の担当で名古屋，新潟，大阪，仙台，札幌，岡山，福岡，東京の8地区で開催され，合計1600名の参加者を集め好評を博した．テキストは土木学会の出版物として刊行され，多くの人々に参考資料として活用されている．

62年度のシンポジウムは「地方都市の交通を考える」と題して同研究分科会の担当で開催され，学会講堂に164名の参加者を集め，地方都市の交通に関する幅広い研究報告と討論が行われた．

63年度のシンポジウムは「新しい時代の地域開発・都市開発プロジェクト」と題して，同研究分科会の担当で東京において開催され，155名の参加者を集め，興味深い研究報告と熱心な討論が行われた．

6. 国際交流

本委員会が関係する国際学術交流としては，63年10月に名古屋市でINTRAセミナー8（第8回国際交通研究者会議）とINTRA-日本大都市圏の交通に関する国際会議が開催され，前者には外国から18人，国内から9人が出席し，後者には外国から25人，国内から約200人が出席し，大変熱心な討論が行われた．特に後者の国際会議では，都市の公共交通の運営方法および整備方策と，国際空港の計画や地域開発に与える影響などに関する事例報告と討論が行われた．

また，平成元年7月に横浜で第5回WCTR（世界交通学会）が開催され，外国から402人，国内から725人を集め，交通に関するすべての分野に関する465編の研究発表と討議が行われ，大きな成果を収めた．なお，発表された論文の中から，査読の結果に基づき，約180編が選ばれ，論文集として出版されることになっている．

7. お知らせ

土木計画学研究編集小委員会の研究発表会の運営方針として，来年度から自由投稿部門にスペシャルセッションを設け，そのテーマとオーガナイザーを公募することになりましたのでお知らせ致します．

8. おわりに

この2年間に，委員会活動の活性化と合理化を図る方向に向けて本委員会の運営内規と土木計画学編集小委員会の編集および運営内規の一部改訂が行われた．土木計画学研究委員会は，以上のほかにも，年次学術講演会のシンポジウムの主催をはじめとする幅広い学会活動を行っている．これらは委員会諸氏と関係者の協力と努力の賜物であるが，今後一層の発展を祈ってやまない．なお，平成元年度，2年度の執行部三役としては委員長 加藤 晃，副委員長 須田 熙，門田博智，幹事長 中村良夫の各先生方が選任されている．本文は前幹事長 河上省吾がとりまとめて報告するものである．

（文責：河上省吾／1989.12.22・受付）